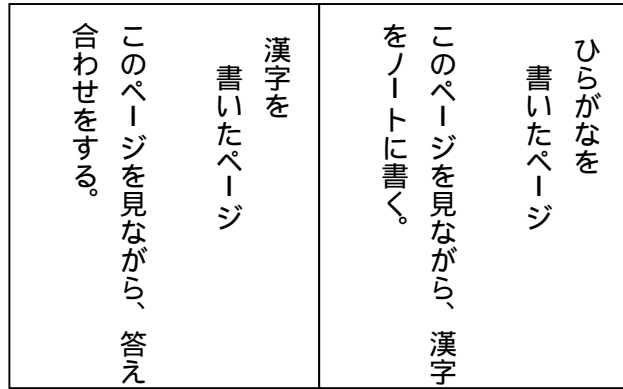


オリジナル手引きによる練習と漢字テスト

1 「天才 君」の使い方(資料一)を参考に、家庭で練習に取り組む。(資料二)

(教師が宿題として「級」を指定する。)
ひらがなのページを見ながら、漢字をノートに→回す
つ書く。 最初のうちは、漢字を見て書いてもよい。



画用紙に、ひらがなのページと漢字のページをはりつけ、累積していく。

答えのページを見て、赤ペンで丸付けをする。

まちがった漢字だけ、覚えるまでノートに書く。

先生に提出して、まちがっていないか見てもらう。

直されたところがあれば、練習する。

- 2 宿題に出した「級」をミニテストする。
- 3 点数をチェックカードに記入する。
- 4 定期的(長期の休み明けなど)に、指定の範囲から五十問テストを行い、定着率を確かめる。

資料一「天才 君」の使い方

(冊子にした「天才 君」の裏表紙に貼り付けて使用する。)

ひらがなを見ながら、漢字をノートに→回すつ書きましょう。

さいしょのうちは、漢字を見て書いてもいいよ。

答えのページを見て、赤ペンで丸付けをしましょう。

まちがった漢字を覚えるまで、ノートに書きましょう。

先生に提出して、まちがっていないか、見てもらいましょう。

直されたところがあれば練習しましょう。

資料二(平仮名版と漢字版一部抜粋)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	人物	第一級
あくてんこう	しっぱい	おおがた	よるこぶ	つづく	めいあん	しつれい	はたらく	す	がっきそうこ		
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	人物	第二級
きまうしなう	すばこ	こめぐら	しょうかき	たっせい	じゅん	せつめい	こな	かんじじてん	みらい		

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	人物	第一級
悪天候	失敗	大型	喜ぶ	続く	名案	失礼	働く	巣	薬器倉庫		
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	人物	第二級
気を失う	巣箱	米倉	消火器	達成	順	説明	粉	漢字辞典	未来		

全校漢字テストへの取組例（フリーソフトの活用）

小学校

全校漢字テスト（チャレンジタイム）の取組例

1 基本実施方法

毎週金曜日六校時（一年生は放課後）に二十分間の「チャレンジタイム」を設定し、全校一斉に漢字テストに取り組む（二学期からの実施）。

一枚のテストの出題数は十問とし、各学年の問題に級位を付け、進級形式で実施する。

級位判定の基準は全問正解とし、その級位が合格しない限り次の級位に進めないこととする。

2 テスト問題の準備

問題作成及び印刷には、フリーソフトを活用する。

問題は各学年の新出漢字を基本とし、国語の教科書を参考に、学級担任が作成する。

作成した問題は、共有のハードディスク内に保存し、修正等を加えながら活用する。

問題の印刷・準備は、上記のフリーソフトを活用し、学級担任が事前に行う。

3 その他

児童一人一人にチャレンジタイム用のファイルを用意し、学習の蓄積ができるようにするとともに、定期的に家庭に持ち帰らせ、家庭と連携しながら進める。（家庭の検印欄を添付する。）

担任は漢字テストの結果（合否の記録）を、全校漢字テスト記録簿に記録し、五回ごとに反省等を加える（学級ファイル）。

学校として、学級ファイルを点検し、学級及び個人の進捗状況を把握する。

漢字テストの取組の様子や進捗状況については、学力向上推進だより「つ子の学び」でも記事に取り上げ、家庭に知らせるとともに、家庭学習の充実についても働き掛ける。

全校漢字テストへの取組例（全校一斉漢字テストタイム）

小学校

全校漢字テスト（全校一斉漢字テストタイム）の取組例

全学年で毎週水曜日に朝の活動として、「すくすく漢字」を十五分間実施し、漢字を読み書きする力の向上を目指す。

実施方法

- ・前年度に学習した漢字（例：第三学年は第二学年の漢字）のうち五十問を三週間にとわって学習する。
- ・一週目は、分からないところは答えを見ながら書く。
- ・二週目は、何も見ないで書き、答えを見て自分で採点する。
- ・三週目は、テストをする。間違いはその日のうちに直す。

（効果等）

全校一斉に継続的かつ計画的に行うので、教師による取組の差がみられない。計画的に三週間にわたって同じ問題に取り組むので、児童は目標をもって家庭でも練習を重ねることができる。練習したことが身に付いたか定期的（三週間に一回）に確認することによって、児童は自己評価をすることができる。また、教師は、児童の把握に役立てることができる。

小テストを行う新出漢字を三つ出題する。例：「縦」「疑」「探」（教科書の巻末にある「新しく習った漢字」より出題）教科書巻末の「新しく習った漢字」の表を見ながら、「縦」「疑」「探」それぞれの使い方を子どもたちと一緒に声に出して読み、読み方を確認する。

この三つの漢字を練習させる。練習の仕方は、画数、筆順、音訓の使い方で行わせ、辞書も活用するよう声かけをする。

（宿題）

小テストを実施する。テスト用紙を配り、黒板に出題漢字を大きく書く。

出題漢字を用紙の所定の位置に書かせる。（添付資料参照）子どもと一緒に空書きをして筆順を確認する。注意する点等もここで指導する。

「よついで、スタート」の合図で小テストを開始する。練習してきた漢字の使い方をどんどん書かせる。

五分後、「やめ」の合図で小テストを終了する。

隣の子と交換して、教科書や練習してきた漢字練習帳を見ながら採点させる。正解した分だけ得点になるので、子どもたちは一生懸命漢字の練習に取り組む。

「今日のMVP」を発表し、賞賛し合う。

次回の漢字三文字を出題する。

全校漢字テストへの取組例（継続練習と評価テスト）

全校漢字テスト（継続練習と評価テスト）の取組例

1 授業の進度に関わらず、毎日、2つずつ新出漢字の練習をする（宿題）。

新出漢字の読みを確認し、その漢字を使った言葉を全体で想起する。

・同音の漢字と意味を間違っている場合があるので、そのときに確認する。

漢字の成り立ちを理解する。

・高学年は漢字事典で成り立ちや意味を自分で調べる。

・低中学年は教師が説明する。

成り立ちを説明すると、漢字学習への意欲が高まる。

教師が板書した漢字を見ながら指で空書きをする。

・書き順、止め、はね、払いをそのときに確認する。

漢字をノートに書き写す。

・一画目は赤、二画目は青、その後は鉛筆で書く。

・「はつがしら」のように、書き順を間違えやすい漢字

は、途中も赤や青を使い、書き順を確認する。

新出漢字が入った言葉を全体で想起し、ノートに書く。

・新出漢字のみ練習するのでなく、その漢字が入った言葉

を練習する。

・読み方が多数ある漢字も、一つ一つ言葉を考える。

家庭で練習する。

・言葉をノートの下まで繰り返し練習する。

・練習した言葉を使った文章を書くことで、学習した漢

字を文章中で使う力を養う。

2 ミニ漢字テストの実施（テストで習熟を図る）

学習した漢字十個を、翌週に毎日（一週間で五回）の漢字テストに出題する。

・出題する言葉は、漢字練習で書いた言葉とは限らない。

児童にはあらかじめ、教科書の巻末に掲載されている言葉の例から出題することを説明しておく。

説明しておく、土日の自主勉強で漢字練習に取り組むことができる。

漢字テストはその場で児童が自ら丸つけをして、間違った漢字は赤で訂正する。

・近くの席の児童と交換して丸つけをするのも良い。

訂正が終わったら、教師に見せる。

・正確に訂正できない児童もいるので、必ず教師が確認し、賞賛や励ましの言葉をかける。

テストはファイルし、金曜日に自分の習熟度を確認する。

3 漢字五十問テストの実施【学期ごと】

練習した言葉の中から五十個選び、テストを実施する。

・長期休み前にどの言葉を出題するかを児童に説明し、休

み中に練習させる。

頑張った達成感を味わい、漢字テストの意欲が高まる機会となる。

4 自主勉強での取り組み

自主勉強では練習の例を出して、反復練習以外の漢字練習

に取り組ませている。

練習例：「同じ部首の漢字を集めよう」「反対の意味の漢字

を集めよう」